

「ほっかいどう学」地方創生塾（芦別市）「探究活動グループ」 1年目 第2回

日時	令和2年10月13日（火） 15時40分～17時40分		
会場	北海道立芦別高等学校		
参加者	高校生6名		
塾長	あしべつ未来の森協同組合常務理事 Ka2 Design フリーデザイナー	新村 充 氏	大倉 加奈 氏

内容

第2回地方創生塾は、前回塾長から出された宿題「芦別に求めるもの」や『高校生カフェ』に求めるものを塾生がどのように考えてきたかを確認し、カフェを開く上での具体的な取組について検討することにした。前段で「カフェ」に行ったことのある塾生が6人中2名で、その2名も大手コーヒーチェーン店のみであることがわかった。6人全員が市内の喫茶店には行ったことがない中、「現在自分たちでカフェをやるとしたら、どのようなカフェが理想なのか」を挙げてもらった。

【「どんなカフェにしたいか」など】

- ・人が入りやすいカフェ。雰囲気が良い。人が立ち寄りやすい。
- ・落ち着いた雰囲気。子ども連れの人も入りやすく、子どもの遊び道具があり、くつろげるようなカフェ。
- ・落ち着いてゆっくりできるカフェ。
- ・外から中が見やすく入りやすいカフェ。場所も便利な所。

以上の意見から、「高校生など多くの世代が気軽に交流できる場所がいいのでは？」と、塾生が感じていることが分かった。

次に、具体的に場所とメニュー等について話し合い、「場所は駅の近く」「レジの横にお土産を置き、『ついで買い』を誘う」「土日ではなく平日に行ける場所」などの話が出たが、前述したとおり塾生が実際にカフェに行った経験が乏しいことから、まずは近隣にあるカフェを視察することになった。

そこで、10月26日に塾生と塾長の大倉氏、市担当者が、まちなかにあり世代交流ができる「カフェ」を運営している上砂川町の「まちの駅ふらっと」を見学し、具体的なイメージを共有することにした。



アンケートの結果（事前・事後）

事前には、「まわりの思いと気持ちが合わせられるかな？」「カフェをするのにどこに店を出したらいいかわかりません」との不安な声があったが、事後は「いろいろな案を出せた」「塾長の助言で自分たちがやるのがわかった」と充実感を感じた声があり、回を増すごとに塾生のやる気が高まっている。

2回目の開催ということで、塾長と塾生との距離も縮まり、意見交流しやすい雰囲気になってきた。高校生が自由な発想を発言でき、塾長と活動の方向性を共有できた機会になった。

第2回創生塾前後の意識変容調査結果

